


北陸新幹線開業5年目の交流人口変化がもたらす 富山への経済波及効果

－ 経済波及効果は304億円/年、インバウンド対応で更なる上乗せも －

2019年11月

 DBJ 株式会社日本政策投資銀行

富山事務所

協力：  株式会社 日本経済研究所
Japan Economic Research Institute Inc.

要旨

本稿では、①北陸新幹線開業を契機として、富山にどのような効果が生まれているのか、同時期に新幹線が開通した隣県石川との比較等も交えて、現在までの動き・特徴を概観する。そのうえで、特に②交流人口（富山を訪れる人の数、移住ではない）の変化がもたらす富山への経済波及効果を定量的に推計、③かかる効果を持続可能とするための方策について考察することとした。

1 | 北陸新幹線による移動の変化

北陸新幹線（長野～金沢間）が開業してから5年目を迎える。新幹線利用者数は、開業1年目に3倍増となり、新たな移動需要を喚起して首都圏との結びつきを強めた。また、当地の地域交通も活性化させている。開業5周年の2020年3月には、新幹線停車駅・富山駅構内での路面電車「南北接続」が実現、回遊性が高まり、更なる交流人口の拡大が期待される。

2 | 北陸新幹線によるさまざまな効果

新幹線停車駅周辺では地価上昇が認められる。北陸・富山の設備投資動向は、2015年度をピークに開業効果の一服等で減少に転じたが、その後も底堅く推移している。首都圏とのアクセス向上等を背景に、富山への本社機能等の移転・拡充の動きが進展した。

観光入込客数は、開業1年目に富山、石川ともに二桁増となり、高い水準を保っている。他方、宿泊者数は、石川の好調さが際立つ。存在感を増すインバウンド宿泊者は、富山が30万人を突破、対応は待ったなしである。

こうした中、新幹線開業を契機に富山のコンベンション件数・参加者数はともに好調裡に推移している他、ホテル投資の波が富山駅周辺にも押し寄せ始め、今後の追い風が期待される。また、民間主導による誘客強化に向けた連携の動きも注目される。

（以下次葉）

3 | 富山への経済波及効果

新幹線開業5年目の交流人口変化がもたらす富山への経済波及効果は、304億円/年。なかでも伸びしろのあるのはインバウンド宿泊客である。

4 | まとめ（富山がかがやき続けるために）

当地でも、先を見据えた先進的な観光ビジネスの取り組みが始まっている。交流人口増加による富山への経済波及効果を持続可能とするための方策としては、（1）消費単価向上を目指す「体験型観光で稼ぐ力の強化」、（2）積極活用しつつ保全管理も行う「文化財等での新たな官民連携」、（3）域内調達率を引き上げる「地消地産戦略・食との連携」、（4）北陸レベルでのシナジー効果の発揮を狙う「敦賀開業に向けた広域連携」等が考えられる。

2023年春の新幹線敦賀開業によって富山～福井間が44分で結ばれ、北陸は確実に小さくなる。

（1）～（4）の取り組みを通じて、富山を含む北陸地域が、大都市圏から近く、住んでよし、訪れてよしの長期滞在に適した魅力ある観光地へと飛躍できる可能性がある。

（富山事務所 吉田守一、吉田志穂、金瀬由梨奈）

目次

1 | 北陸新幹線による移動の変化

- 北陸新幹線の概要 1
- 新幹線利用者数の推移 2
- 首都圏～富山・石川の流動状況 2
- コンパクトシティ | 富山市 | との連携 3

2 | 北陸新幹線開業によるさまざまな効果

- 地価推移 4
- 設備投資動向 5
- 富山県への本社機能等の移転状況 5
- 富山・石川の観光入込客数の推移 6
- 富山の観光入込客の特徴 6
- 富山・石川の延べ宿泊者数の推移 7
- 富山・石川のインバウンドの状況 8
- 富山・石川のコンベンション開催件数・参加者数の推移 9
- 富山駅周辺のホテル建設・再開発実績・計画 10
- 観光促進に向けた連携 11

3 | 富山への経済波及効果

- 北陸新幹線開業5年目の交流人口変化がもたらす富山への経済波及効果 12

4 | まとめ

- 富山がかがやき続けるために 14

1 | 北陸新幹線による移動の変化

北陸新幹線の概要

- 北陸新幹線（長野～金沢間）が、2015年3月14日に開業してから今年で5年目を迎える。半世紀来の悲願であった新幹線開業によって富山～東京間の所要時間が最短2時間8分と1時間以上短縮され、乗り換えも便利になり、首都圏とのアクセスは劇的に良くなった（図表1-1）。
- 新幹線開業によって、こうした利用者が直接享受する効果はもちろん、富山の地域経済に対して、さまざまな効果¹⁾を当初の想定を超えてもたらしていると考えられる。

図表1-1 北陸新幹線の概要

区間	東京～大阪間										
総延長	約700km										
基本仕様	●東京～高崎間105kmは上越新幹線と共用										
	●2015年3月に長野～金沢間228km開業										
E7系、W7系の12両編成											
最高速度260km/h、定員924名											
列車名	往復回数	停車駅									
		金沢	新高岡	富山	黒部宇奈月温泉	糸魚川	上越妙高	飯山	長野	(省略)	東京
かがやき	10	◎	-	○	-	-	-	-	○	⇔	◎
はくたか	14	◎	○	○	○	○	○	□	○	⇔	◎
はくたか	1	◎	○	○	○	○	○	○	◎		
つるぎ	18	◎	○	◎							
あさま	17								◎	⇔	◎

◎：始発終着駅、○：途中停車駅、□：途中一部停車駅

(出所) 表は当行作成、図は©Esri Japan

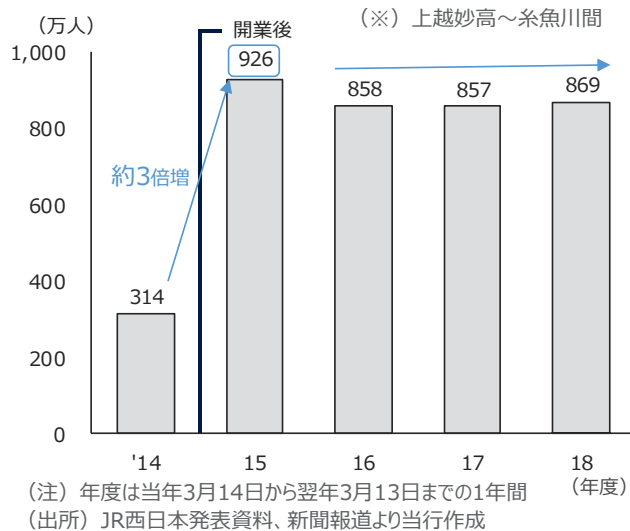


1) 例えば、新幹線停車駅が立地する都市のシンボル性の向上・都市拠点の形成が期待される「存在効果」や、経済効果・土地利用効果・モーダルシフト効果等の「波及効果」等

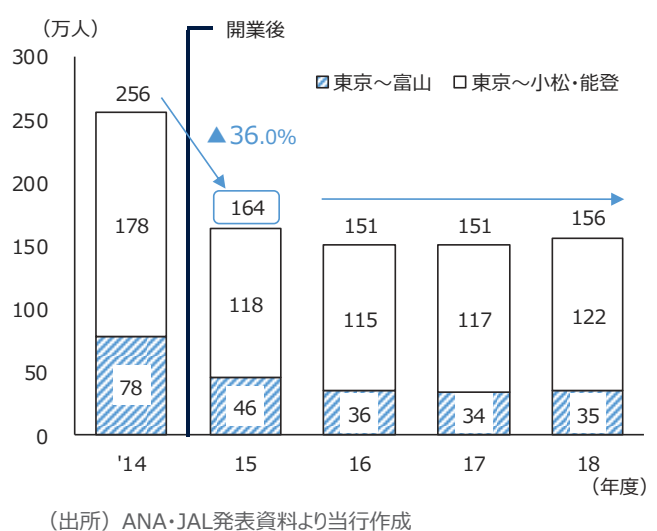
新幹線利用者数の推移

- まず北陸新幹線（上越妙高～糸魚川間）の利用者数をみると、開業1年目の2015年度が926万人と開業前2014年度の約3倍増となった（図表1-2）。翌年の反動減も小さく、開業効果は持続しており、北陸と首都圏を結ぶ移動手段として定着したといえる。
- 一方、新幹線好調のあおりを受けて、東京（羽田）～北陸（富山+小松+能登）間の航空利用者は2015年度164万人と、前年度比▲36.0%の大幅減となり、その後は横這いで推移している（図表1-3）。
- 富山空港の東京便も例外ではなく、減便や小型化を余儀なくされたが、1日4便体制を維持しており、羽田空港での国内・国際便乗継手段や有事の際の冗長性の確保、インバウンド（訪日外国人観光客）対応等の観点から、官民一体で利用促進に努めているところ。

図表1-2 北陸新幹線の利用者数の推移（※）



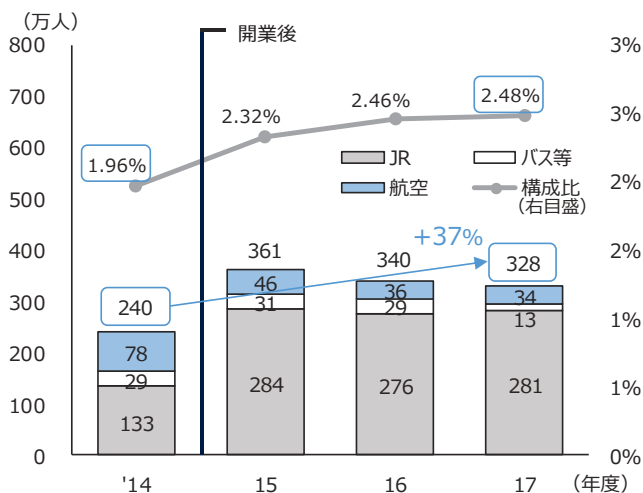
図表1-3 東京～北陸間の航空利用者数の推移



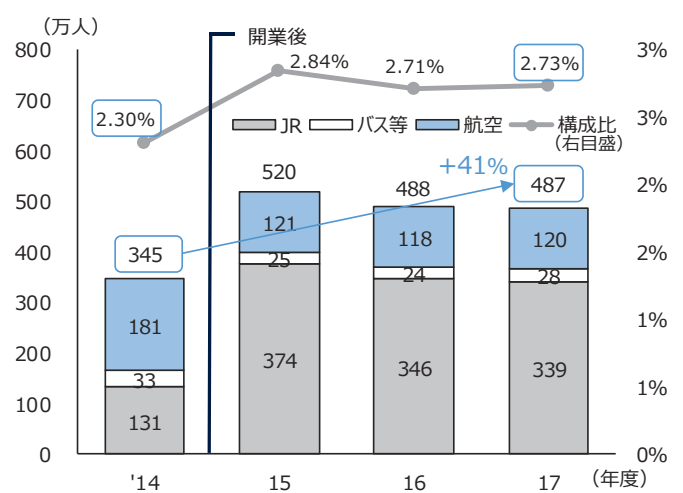
首都圏～富山・石川の流動状況

- そこで、首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）～富山/石川（発着計）の流動状況に着目して開業後の変化をみると、開業前2014年度から2017年度にかけて、全体ではJR（新幹線）が牽引する形で、富山240万人→328万人、石川345万人→487万人と、ともに約4割増となった（図表1-4、1-5）。
- 全国～富山/石川（発着計）に占める首都圏～富山/石川（発着計）のウエイトとみると、同時期に富山1.96%→2.48%、石川2.30%→2.73%と、いずれも上昇しており、新幹線は航空利用者を取り込んだ以上に、新たな移動需要を喚起して首都圏との結びつきを強めたといえる。

図表1-4 首都圏～富山（発着計）の流動状況の推移



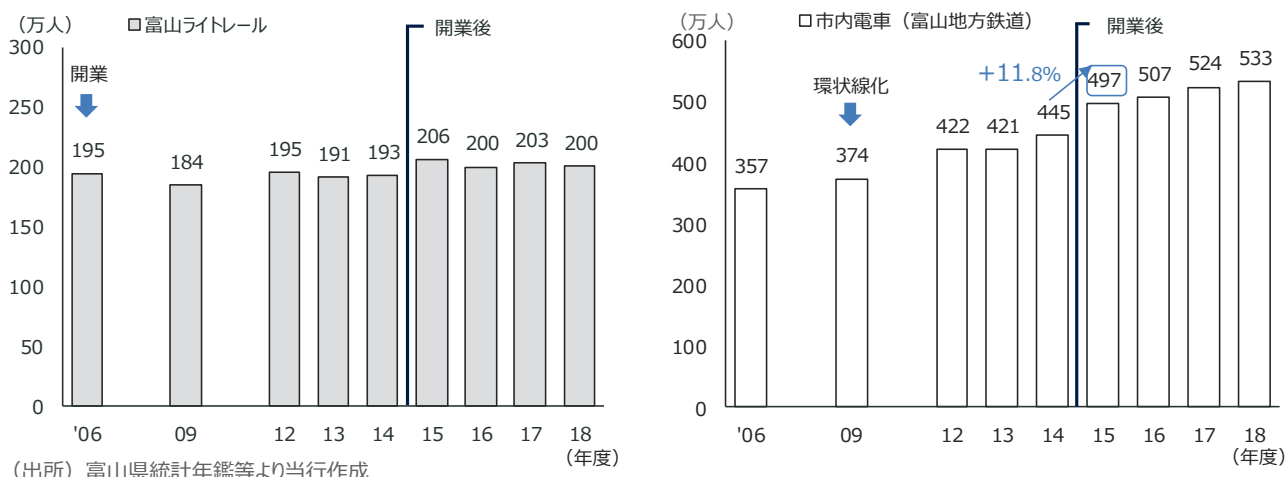
図表1-5 首都圏～石川（発着計）の流動状況の推移



コンパクトシティ | 富山市 | との連携

- 北陸新幹線は、二次交通となる当地の地域交通も活性化させている。例えば、新幹線停車駅のある富山市では、予てより公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを標榜しており、2006年に富山駅北の駅前広場と岩瀬浜を結ぶ国内初の本格的なLRT¹⁾（富山ライトレール）を導入し、2009年には富山駅南側の中心部を走る市内電車を環状線化、新幹線開業に合わせて市内電車の富山駅高架下への乗入れを果たす等、路面電車の整備・利便性向上に努めてきた。
- 結果、特に富山駅直結の市内電車は、開業1年目の2015年度に利用者が497万人（前年度比+11.8%）と二桁増となって以降、さまざまな利用促進策²⁾も功を奏して、増加基調にある（図表1-6）。

図表1-6 路面電車の利用者数（輸送人員）の推移



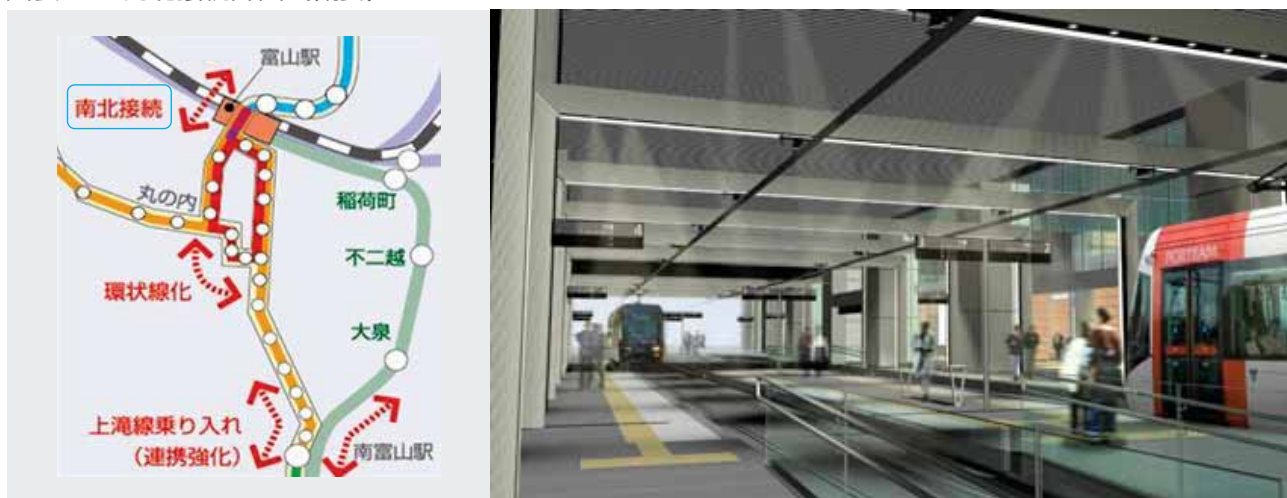
1) Light Rail Transit (次世代型路面電車)

2) 例えば、市内の提携ホテル・旅館に宿泊した日本人には半額利用券（インバウンドには無料利用券）を提供している

コンパクトシティ | 富山市 | との連携

- 今後、新幹線開業5周年を迎える2020年3月には、一連の施策の集大成として、富山駅構内での路面電車の「南北接続」が予定されている。南北接続の実現によって、環状線化した中心市街地と、観光地・岩瀬地区を含む市北部との回遊性が高まり、更なる交流人口の拡大が期待される。

図表1-7 南北接続計画（概要）



■ 期待される南北接続工事効果

- 在来線や北陸新幹線を含む交通結節機能が強化され、富山駅は乗換利便性が極めて高い交通拠点となる

- 路線でマンション建設や出店が増える可能性があり、新たな路線利用者は**31.4万人/年**増加する見込み（富山市試算）

- 路面電車間の南北乗換が不要になることで、回遊性が高まり、市内の交流人口拡大に繋がること期待

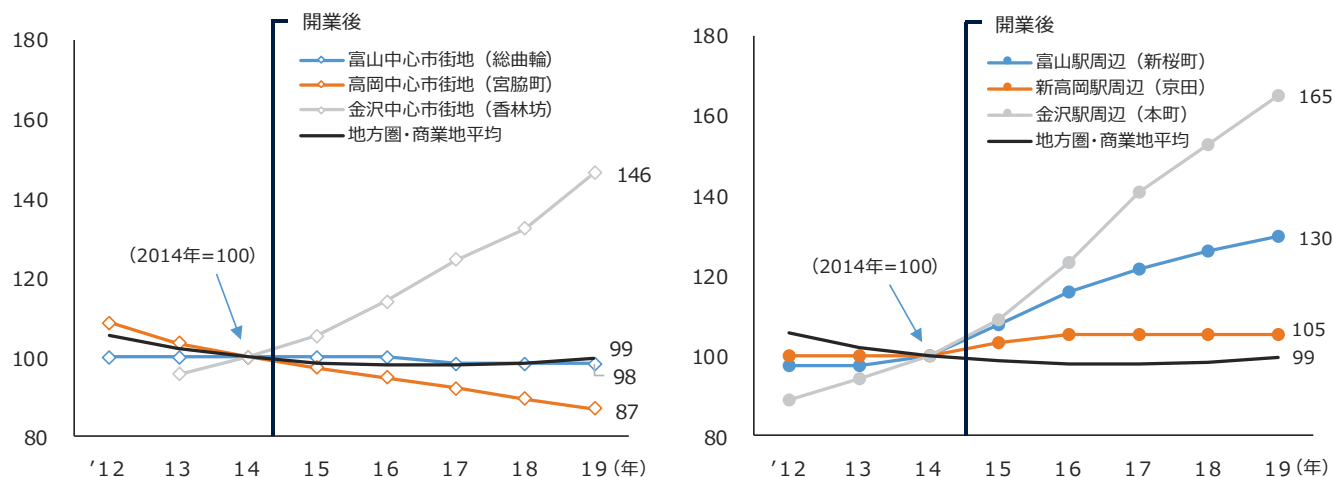
(出所) 富山市の資料、新聞記事より当行作成

2 | 北陸新幹線開業によるさまざまな効果

地価推移

- 最初に、新幹線停車駅のある富山・高岡・金沢の地価推移に着目する。いわゆる中心市街地では、新幹線の新駅から約2.5km離れている高岡が、地方圏・商業地平均を下回って推移しているものの、富山は平均並の水準を確保し、金沢に至っては大幅な上昇をみせた。
- 加えて、新幹線駅周辺ではいずれも地価の上昇が認められ、金沢、富山、高岡の順に上昇幅が大きい。とりわけ、新幹線開業に伴い首都圏からのオフィス移転や新規のホテル投資等がみられた金沢では、中心市街地、駅周辺ともに、開業前から地価は上昇基調となっており、現在もその勢いを保っている。また、富山についても開業時期に上昇に転じ、現在も堅調に推移していることがうかがえる（図表2-1）。

図表2-1 富山・高岡・金沢の地価推移（左が中心市街地、右が新幹線駅周辺）



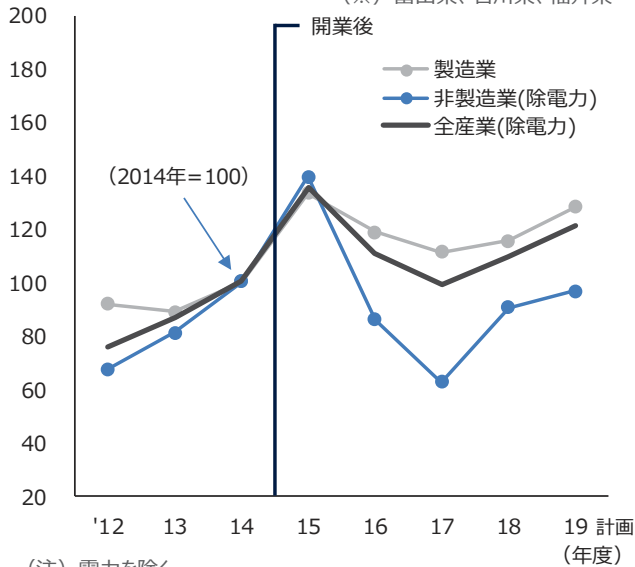
(注) 黒部宇奈月温泉駅は適当な地点がなく、分析の対象から除いている
 (出所) 国土交通省「地価公示」より当行作成

設備投資動向

- 民間企業の設備投資動向の点では、北陸地域は2015年度にかけて6年連続プラスと全国に比して類のない伸びを記録し、開業前2014年度時点で既に投資水準は高かったといえよう（図表2-2）。富山県だけでみても、同様の傾向がみとれる（図表2-3）。
- 大幅増となった2015年度にピークを打った後、開業効果の一服やその他の大型投資の反動減等で一旦は減少に転じたものの、電気機械や一般機械等を始め製造業が牽引して底堅く推移している。

図表2-2 北陸地域（※）の設備投資水準の推移

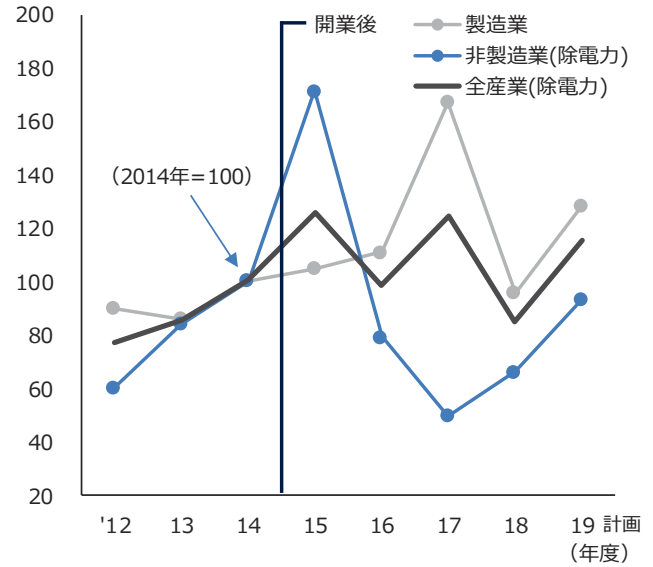
（※）富山県、石川県、福井県



(注) 電力を除く

(出所) 当行「北陸地域設備投資計画調査」より作成

図表2-3 富山県の設備投資水準の推移



富山県への本社機能等の移転状況

- 企業の動きとしては、東日本大震災に端を発し、北陸新幹線開業と同時期に実施されたYKKによる黒部市への本社機能の一部移転が、東京一極集中の是正に繋がる象徴的な取組みとして注目を集めた。
- この他にも、新幹線開業に伴う首都圏とのアクセス向上を背景に、「くすりの富山」に代表される地元医薬品メーカーの業績好調や2015年度創設の「地方拠点強化税制」等の優遇制度も相俟って、2017年にかけて富山への企業誘致が一定程度進展し、本社機能の一部や高付加価値を生み出す研究開発施設等、特徴ある移転・拡充の動きが相次いだといえる（図表2-4）。

図表2-4 富山県への本社機能等の移転状況

開始年	企業名	概要	移転先	認定 ⁽¹⁾
2013年	YKKグループ	本社機能の一部（法務・知財、購買、人事、経理等）移転	黒部市	【移】
2013年4月	大平洋製鋼	本社移転	富山市	
2016年2月	ダイト	研究開発施設「医薬品工業化プロセス研究棟」を整備	富山市	【拡】
2016年4月	YKK AP	研究開発や試験・検証部門を集約。研究開発拠点「YKK AP R&Dセンター」を整備	黒部市	【拡】
2016年4月	ピーエーワークス	本社機能拡充、移転	南砺市	【拡】
2016年6月	医薬品医療機器総合機構（PMDA）北陸支部	「アジア医薬品・医療機器トレーニングセンター研修所」が行うGMP調査に関する研修等に協力	富山市	
2016年12月	富山化学工業 ※	研究開発施設の整備 ※現 富士フィルム富山化学	富山市	【拡】
2017年1月	日本カーバイド工業	研究開発部門を集約、「新研究開発センター」を整備	魚津市	【拡】
2017年1月	日立国際電気 ※	新工場の建設に併せて、既存の研究開発スペースを拡張 ※現 KOKUSAI ELECTRIC	富山市	【拡】
2017年4月	能作	本社機能拡充、移転	高岡市	
2017年5月	陽進堂	本社機能の一部（調査・企画部門）移転、新「管理棟」を集約	富山市	【移】
2017年7月	ダイト	研究開発施設「高薬理R&Dセンター」を整備	富山市	【拡】
2017年7月	キョーリンメディオ	研究開発施設「高岡創剤研究所」を整備	高岡市	【拡】
2017年9月	救急薬品工業	研究開発施設「総合研究棟」を整備	射水市	【拡】
2017年11月	ゴールドウィン	本社機能の一部（管理・間接部門）移転、研究開発施設「ゴールドウィン テック・ラボ」を整備	小矢部市	【移】
2018年10月	コーセル	研究開発施設「R&Dセンター」を整備		【拡】
2019年9月	リードケミカル	本社機能の一部（管理、営業、海外事業）を富山駅前ビルに移転、本社社屋では研究施設を拡張	富山市	
2020年10月	東亞合成	製品開発施設「高岡創造ラボ」を整備	高岡市	予定

(1) 地方拠点強化税制の認定⁽²⁾公表ベース

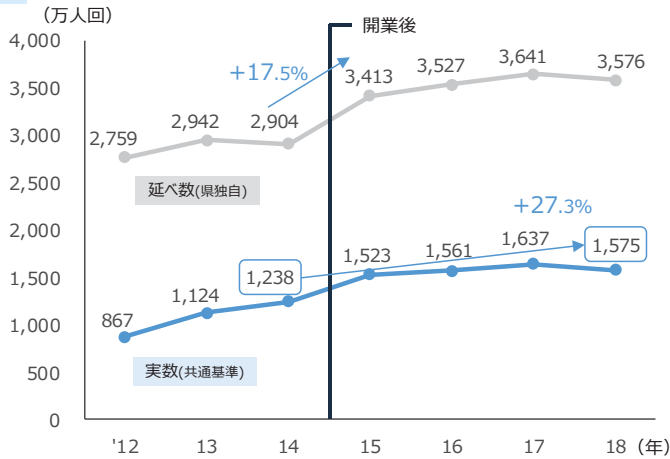
【移】移転型：東京23区内から本社機能等を県内に移転、【拡】拡充型：県内にある企業の本社機能等の強化・拡充

(2) 富山県認定実績：20社22計画（うち移転型4例）2019年10月7日現在

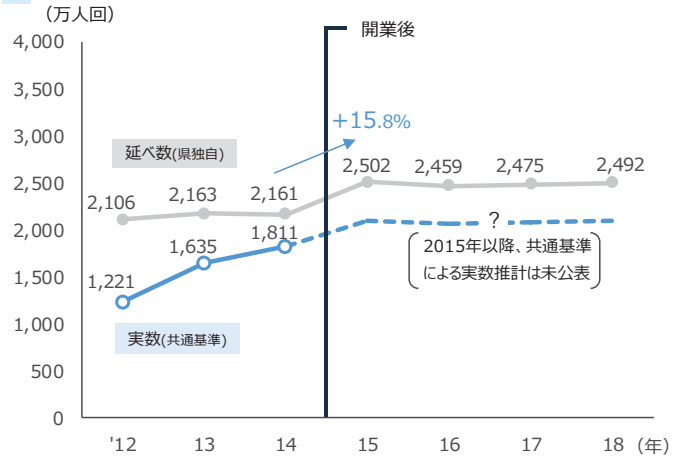
富山・石川の観光入込客数の推移

- それでは、新幹線開業後の観光入込客数の動きはどうだったか。観光入込客数統計は、都道府県が各々独自の手法で調査、推計を行ってきた歴史があり、富山県、石川県も同様の状況¹⁾にある。従って、統計の単純比較は困難なため、それぞれ延べ数の動きに着目すると、開業1年目の2015年に富山+17.5%、石川+15.8%と二桁の増加となり、以降も高い水準を保っていることがわかる（図表2-5、2-6）。
- 値が小さく算出される観光庁共通基準による実人数推計においても、富山は開業1年目に大きく伸びて以降、直近2018年までの間に1,238万人回→1,575万人回と3割近くの増加となっており、開業効果は大きく、相応に持続しているといえよう。（なお、石川県では2015年以降、共通基準による実数推計は未公表である。）

図表2-5 富山県 観光入込客数の推移



図表2-6 石川県 観光入込客数の推移



(注) 県独自：各県が独自に推計したもの、共通基準：観光入込客統計に関する共通基準に基づき、観光庁がとりまとめ・推計したもの

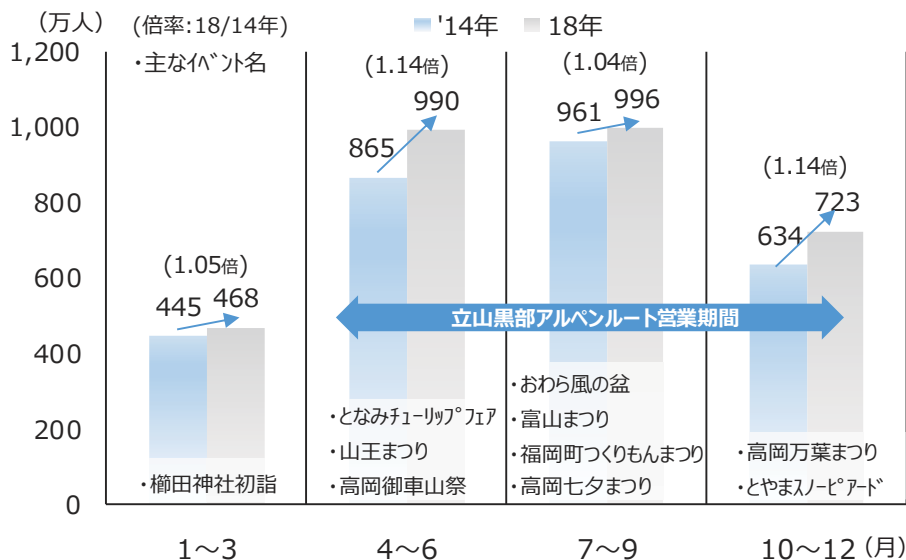
(出所) 富山県「富山県観光客入込数等」、石川県「統計からみた石川県の観光」、観光庁「共通基準による観光入込客統計」より当行作成

1) 例えば、観光地・観光施設の入込客につき、富山県は原則実数を積み上げているが、石川県では同一人の観光施設複数訪問を考慮して過去の統計から算出した入込客率を乗じた推計を行っている

富山の観光入込客の特徴

- 四季折々の美しさが自慢の富山だが、四半期別に入込客数（延べ数、ただし公表可能な観光地点・イベントのみ集計）の変化をみると、開業前2014年と直近2018年の単純比較では、季節の良い4～6月、10～12月が1割以上増加した。一方、夏の7～9月に加えて、有力観光資源である立山黒部アルペンルートが封鎖されて観光入込客数の落ち込みが著しい冬の1～3月は、ともに微増にとどまっている（図表2-7）。

図表2-7 富山県 四半期別入込客数（延べ数）変化



(注) 入込数の公表が了承された観光地点・イベントのみ計上

(出所) 富山県「富山県観光客入込数等」より当行作成

富山の観光入込客の特徴

- 元々当地は、多くの観光資源が郊外に広く分散しているという特徴を有する。そこで、市町村別に入込客数の変化みると、開業前の2014年と直近2018年の単純比較では、富山市（+141万人）、高岡市（+37万人）、黒部市（+33万人）と、新幹線停車駅のある3市が全て入込増を確保した（図表2-8）。
- 特に近年、富山市では、兼六園（金沢市）と並び年間200万人以上の入込みを数える「富岩運河環水公園」に加えて、「市ガラス美術館」（2015年開館）、「県美術館」（2017年開館）等、アートを中心に
1) 富山駅周辺施設の充実が図られており、入込客数の大幅な増加に繋がったものと思料される。

図表2-8 富山の市町村別入込客数（延べ数）変化

市町村	入込客数（延べ数、万人）		14→18年		増減	主な観光地・イベント等（一部略称を記載）				
	14年	構成比	18年	構成比		環水公園	山王まつり	スノーアート*	おわら風の盆	富山まつり
富山市	643	22%	784	25%	141	高岡古城公園	つくりもんまつり	高岡七夕まつり	高岡御車山祭	高岡万葉まつり
高岡市	349	12%	385	12%	37	峡谷鉄道	宇奈月温泉			
黒部市	241	8%	274	9%	33	道の駅福光	桜ヶ池	五箇山		
南砺市	343	12%	369	12%	26	ひみ番屋街				
氷見市	188	6%	202	6%	15	海王丸パーク	太閤山ランド*	道の駅・新湊	櫛田神社初詣	
射水市	394	14%	403	13%	9	海洋深層水パーク				
入善町	39	1%	46	1%	8	ヒスイ海岸	舟川桜並木			
朝日町	25	1%	32	1%	7	宮島峡	カスラント*おやべ			
小矢部市	112	4%	117	4%	5	日石寺				
上市町	54	2%	59	2%	4	立山黒部アルペンルート				
立山町	175	6%	179	6%	4	ほたるいかミュージアム				
滑川市	31	1%	33	1%	2	魚津水族館	ミラージュランド*			
魚津市	135	5%	127	4%	▲ 8	フェリスシア				
砺波市	177	6%	167	5%	▲ 10					
合計	2,904	100%	3,176	100%	273					

（注）入込数の公表が了承された観光地点・イベントのみ計上。順序は14→18年増減順

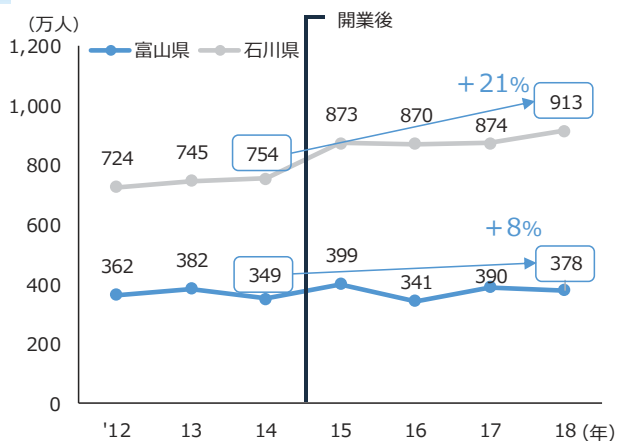
（出所）富山県「富山県観光客入込数等」より当行作成

1) 当行富山事務所「アートで選ばれる富山へ」（2017年9月）参照

富山・石川の延べ宿泊者数の推移

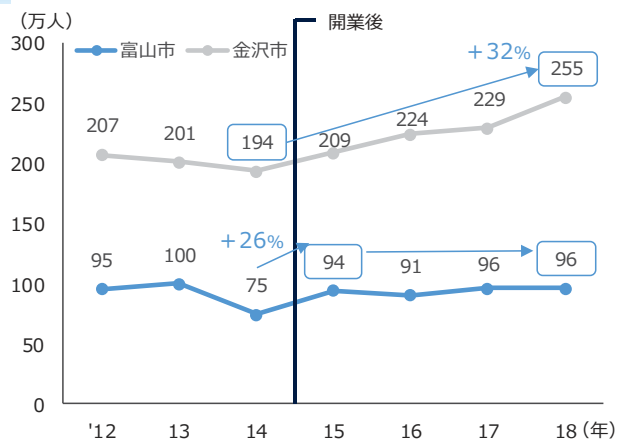
- 観光入込客数の順調さを踏まえて、日帰り客に比べて消費単価が高い（延べ）宿泊者数の推移に着目すると、様相が一変する。統一的な基準である観光庁「宿泊旅行統計調査」によれば、開業前2014年から直近2018年にかけて、石川の延べ宿泊者数が754万人→913万人と21%増となったのに対し、富山は349万人→378万人と8%増にとどまり、石川の好調さが際立つ結果となった（図表2-9）。
- 同時期に、新幹線停車駅のある金沢市が194万人→255万人と32%増となり、県全体の伸びを牽引したといえる（図表2-10）¹⁾。金沢市も開業当初こそ穏やかな伸びだったものの、金沢駅周辺や中心市街地でホテル開業が相次ぐに連れ右肩上がりの増加に転じており、現在も活発なホテル投資が行われている²⁾。

図表2-9 富山県・石川県 延べ宿泊者数の推移



（出所）観光庁「宿泊旅行統計調査」より当行作成

図表2-10 富山市・金沢市 延べ宿泊者数の推移



1) 金沢市は、観光庁統計よりカバレッジが広い独自調査（金沢市内宿泊施設動向調査）を行っている。これを見ても、2014年275万人→2018年331万人と20%増となっており、延べ宿泊者数は好調であることがわかる

2) 当行北陸支店「北陸新幹線を契機とした金沢市内におけるホテル投資動向」（2017年12月）参照

富山・石川の延べ宿泊者数の推移

- 前頁の図表2-10の通り、富山市では、開業1年目の2015年こそ94万人と26%増となったが、富山駅周辺での新規ホテル供給が限られる中で（図表2-11）、直近2018年は96万人と横這いにとどまった。
- こうした受け入れ体制整備の遅れに加えて、新幹線によって東京からの所要時間が短縮し、現地滞在可能時間が伸びたために県外日帰り客が増加したことや、富山～金沢間が約20分間で移動可能となったため、ハイシーズン等において、本来富山で享受し得た宿泊需要の一部が金沢に吸い上げられた側面も否めない。当地が通過型の観光地となっていると指摘する声も聞かれる。

図表2-11 富山市・金沢市 ホテル・旅館数の変化

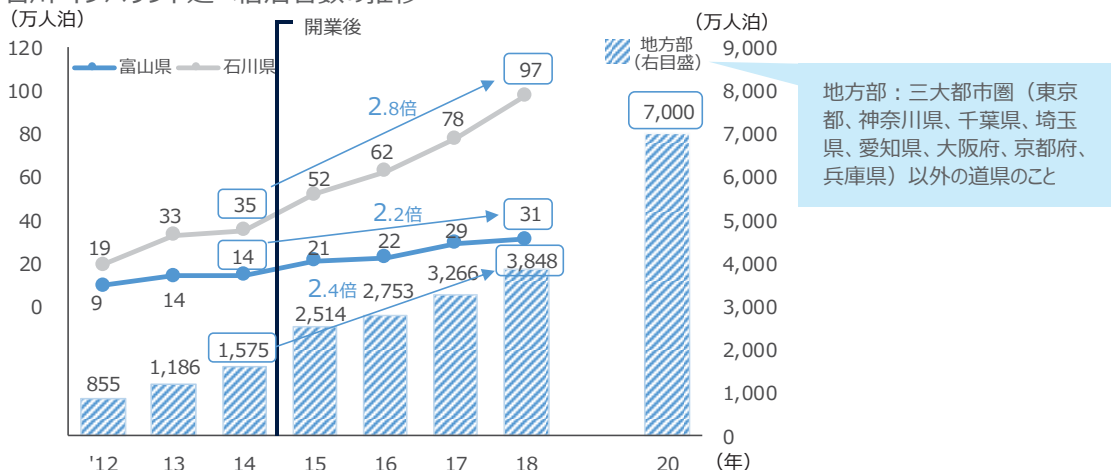
自治体	年度末	ホテル+旅館				簡易宿所
		施設数	客室数	(うちホテル)	(うち旅館)	施設数
富山市	2014	180	7,430	(5,119)	(2,311)	41
	2017	169	7,396	(5,323)	(2,073)	41
	2018	167	7,845	n.a.	n.a.	n.a.
	'14→17増減	▲ 11	▲ 34	(204)	(▲ 238)	0
	14→18増減	▲ 13	415	n.a.	n.a.	n.a.
金沢市	2014	142	9,423	(8,640)	(783)	23
	2017	135	9,702	(9,007)	(695)	124
	'14→17増減	▲ 7	279	(367)	(▲ 88)	101

(注) 簡易宿所：宿泊する場所を多人数で共用する構造及び施設（山小屋、ユースホステル、カプセルホテル等）
 (出所) 厚生労働省「衛生行政報告例」、富山県「富山県観光客入込数等」より当行作成

富山・石川のインバウンドの状況

- 続いてインバウンドの状況に着目する。周知の通り、わが国では観光先進国を目指して東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）が開催される「2020年までに、インバウンド4,000万人、地方部の外国人延べ宿泊者数7,000万人泊」といった高い政府目標¹⁾を掲げている（図表2-12）。
- 官民連携によるPR努力や新幹線開業に伴うFIT²⁾増加もあって、当地でも確実にインバウンドの存在感が高まってきた。インバウンド延べ宿泊者数の推移をみると、開業前2014年から直近2018年までに富山は14万人泊→31万人泊と2.2倍となり、初めて30万人を突破した。他方、同時期に地方部全体では2.4倍、石川は2.8倍と富山を上回る勢いがあり、成長市場としてのインバウンド対策強化は待たなし、の様相を呈している。

図表2-12 富山・石川 インバウンド延べ宿泊者数の推移



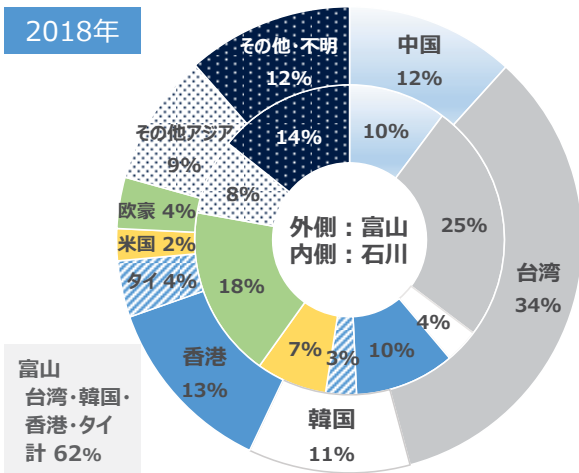
(注) 延べ宿泊者数の推移は、従業員10人以上施設の全数及び同10人未満施設の1/9 or 1/3を抽出して調査
 (出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」より当行作成

1) 「明日の日本を支える観光ビジョン」（2018年3月） 2) Foreign Independent Tourの略。団体旅行やパッケージツアーを利用せず、個人で海外旅行に行くこと

富山・石川のインバウンドの状況

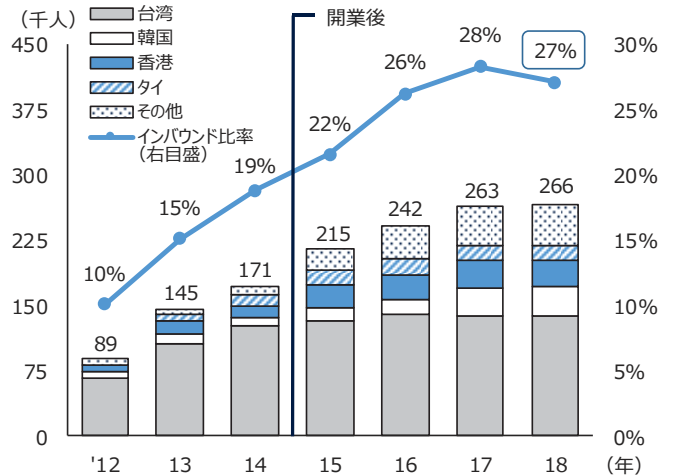
- 国籍別構成比では、石川は、滞在期間が長くて消費単価が高いことで知られる欧米豪の国・地域が1/4を占めており、バランスが良い。富山は、立山黒部アルペンルートにおけるインバウンド入込客の上位4カ国（台湾、韓国、香港、タイ）で全体の6割以上を占める（図表2-13）。
- 立山黒部アルペンルートは確かに世界水準の観光資源だが、台湾の団体旅行客中心にインバウンド比率は既に3割近くにまで上昇している（図表2-14）。冬季封鎖や途中の交通手段の制約等で受入容量には自ずと限りがあることから、欧米豪を始め、未開拓のインバウンド宿泊需要を取り込んでいくには、欧米豪FITが喜び地域の消費を増やすような、新たな観光コンテンツや誘客の仕掛けづくりが課題といえよう。

図表2-13 富山・石川 インバウンド国籍別構成比



(注) 国籍別構成比は、従業員10人以上施設の全数調査 (出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」より当行作成

図表2-14 立山黒部アルペンルートのインバウンド数の推移

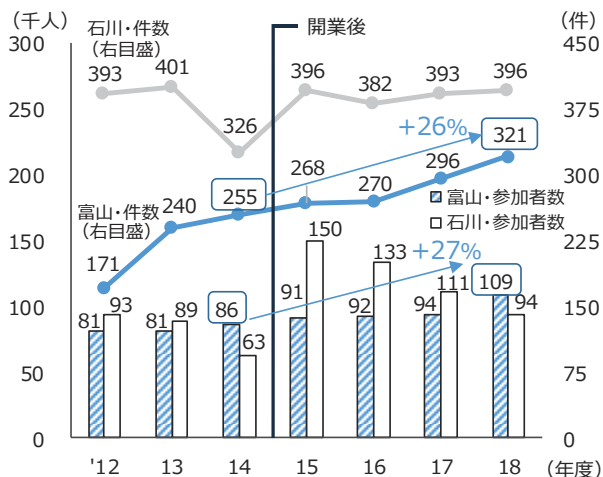


(注) 富山側・長野側ルートの入込客の合計。インバウンド比率：入込客合計に占めるインバウンドの比率 (出所) 立山黒部観光「立山黒部アルペンルート営業概況について」より当行作成

富山・石川のコンベンション開催件数・参加者数の推移

- こうした中、富山では新幹線開業を契機に、通常の観光客に比べ消費額が大きいMICE₁の誘致に注力、2014年度から2018年度にかけて、コンベンション件数・参加者数ともに3割近く増加、好調裡に推移している。集計範囲が異なるため厳密ではないが、2018年度は参加者数で石川を上回った（図表2-15,16）。
- 2019年10月には、当地で「世界で最も美しい湾クラブ」世界総会が開催された。大規模な国際会議の誘致はインバウンド宿泊需要を喚起し、交流を通じて富山のファンを増やす有力な手立ての一つである。あわせて、インバウンドのニーズに応えるユニークベニュー₂やエクスカージョン₃の拡充も期待される。

図表2-15 富山・石川コンベンション件数・参加者数の推移

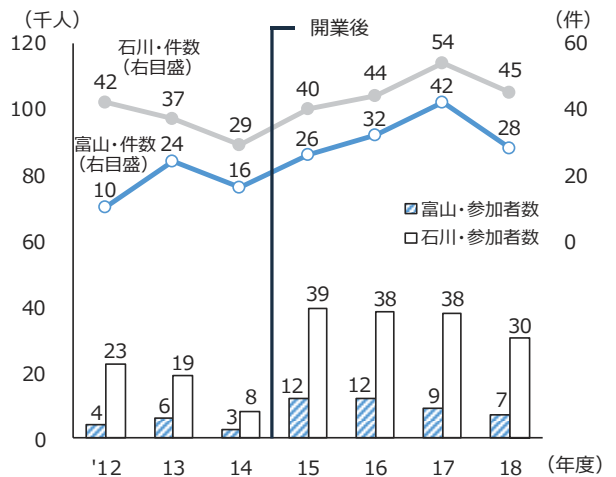


(注) 集計範囲：富山：富山含む二県以上&50名以上の参加（国際会議は二カ国以上&20名以上（かつ外国人10名以上）の参加）

石川：北陸三県以上&30人以上の参加（国際会議は日本を含む二カ国&2名以上の参加）

(出所) (公財) 富山コンベンションビューロー及び(公財) 金沢コンベンションビューローが公表したコンベンション統計より当行作成

図表2-16 うち国際会議の件数・参加者数の推移



1) Meeting、Incentive、Conference、Event/Exhibitionの略 2) ユニークベニュー：博物館、美術館、歴史的建造物、神社仏閣、城郭、屋外空間等、特別感を演出できる会場 3) エクスカージョン：会議併設の体験型見学会

富山駅周辺のホテル建設・再開発実績・計画

- また、新幹線開業後の観光客増加を受けて金沢市で先行したホテル投資の波が、富山駅周辺にも押し寄せ始めた。今年から2022年にかけて、JALシティやヒルトン（北陸初進出）等、既存のホテル客室数の1割以上に相当する900室強の新規供給が計画されており、ハイシーズン時のホテル不足の緩和やインバウンドの宿泊需要の取り込み等の点で、今後の追い風が期待される（図表2-17）。
- これに並行して、富山中心市街地の再開発計画においても民間投資が活発化しており、賑わいの相乗効果が待たれる状況にある。

図表2-17 ホテル建設・再開発実績・計画（富山駅周辺）

凡例	開業	事業名・施設名	ホテル
①	2012年4月	中央通りf地区再開発「ルシーダタワー」	
②	2012年9月	西町東南地区再開発「プレミスト西町」「西町プレミア」	
③	2015年6月	西町南地区再開発「TOYAMAキラリ」	
④	2016年6月	総曲輪西地区再開発「ユウタウン総曲輪」	○
⑤	2017年4月	市立総曲輪小学校跡地「総曲輪レガートスクエア」	
⑥	2018年4月	桜町一丁目4番地区再開発「パティオさくら」	○
⑦	2019年4月	「ダイワロイネットホテル富山駅前」	○
⑧	2019年6月	総曲輪三丁目地区再開発	
⑨	2019年12月	「リブマックス」	○
⑩	2021年4月	富山市本庁舎北側公有地活用	
⑪	2021年度	富山市駅北中規模ホール	
⑫	2022年春	富山駅南西街区市有地活用「JR富山駅NKビル」	○
⑬	2022年春	「ホテルJALシティ富山」	○
⑭	2022年	富山城址公園前 複合ビル	○
⑮	2022年	「ダブルツリー-byヒルトン富山」	○
⑯	2023年春	中央通り地区D北街区再開発	
⑰	2025年	桜木町再開発	○
⑱	未定	西町北・総曲輪地区再開発	
⑲	未定	富山国際会議場横再開発	

（出所）新聞報道等により当行作成



（参考）富山駅周辺のホテル建設・再開発実績・計画一覧

凡例	開業	事業名・施設名	施設概要	備考	ホテル
①	2012年4月	中央通りf地区再開発「ルシーダタワー」	18階建て、マンション125戸、駐車場、商業施設等		
②	2012年9月	西町東南地区再開発「プレミスト西町」「西町プレミア」	14階建て、マンション128戸、駐車場、商業施設等		
③	2015年6月	西町南地区再開発「TOYAMAキラリ」	10階建て、富山市ガラス美術館、富山市立図書館、富山第一銀行本店等	富山大和跡地	
④	2016年6月	総曲輪西地区再開発「ユウタウン総曲輪」	9階建て、駐車場約480台、ホテル151室、シネマコンプレックス、マンション19戸、商業施設等	ホテル：「御宿野乃」（共立メンテナンス）	○
⑤	2017年4月	市立総曲輪小学校跡地「総曲輪レガートスクエア」	富山市まちなか総合ケアセンター、学校法人 青池学園、グンゼスポーツ、駐車場325台等	PPP事業主体：大和リース 他	
⑥	2018年4月	桜町一丁目4番地区再開発「パティオさくら」	18階建て、ホテル314室、マンション75戸、専門学校、飲食店等	ホテル：「東横イン」r.	○
⑦	2019年4月	「ダイワロイネットホテル富山駅前」	13階建て、ホテル204室		○
⑧	2019年6月	総曲輪三丁目地区再開発	23階建て、マンション206戸、オフィス、商業施設等	西武富山店跡地 商業施設：2020年春オープン	
⑨	2019年12月	「リブマックス」	8階建て、ホテル89室	北酸グループがオーナー	○
⑩	2021年4月	富山市本庁舎北側公有地活用	8階建て、富山市教育委員会、保育所、スポーツクラブ等	PPP事業主体：ホクタテ 他	
⑪	2021年度	富山市駅北中規模ホール	客数700席程度、多機能型施設	PFI事業	
⑫	2022年春	富山駅南西街区市有地活用「JR富山駅NKビル」	12階建て、ホテル約190室、商業施設、駐車場約400台等	ホテル：「グリスキオ」想定（JR西日本グループ）	○
⑬	2022年春	「ホテルJALシティ富山」	10階建て、ホテル約250室	ホテル：オーケラ系列	○
⑭	2022年	富山城址公園前 複合ビル	飲食店、マンション、ホテル等	土地をタカラレーベンが取得	○
⑮	2022年	「ダブルツリー-byヒルトン富山」	ホテル201室、フィットネスジム、大浴場、会議室等	ホテル：ヒルトン系列	○
⑯	2023年春	中央通り地区D北街区再開発	26階建て、マンション、商業施設、駐車場等	アイススケート場整備予定	
⑰	2025年	桜木町再開発	20階建て以上、ホテル、オフィス、医療関連施設等	アリーナを核にした複合施設を予定	○
⑱	未定	西町北・総曲輪地区再開発	商業施設、マンション等		
⑲	未定	富山国際会議場横再開発	18階建て、飲食店、医療施設、マンション等		

（出所）新聞報道等により当行作成

観光促進に向けた連携

- 加えて、国からの情報面・財政面での後押しもあり、多様な関係者の合意形成やデータに基づく科学的マーケティング等、戦略的な観光地経営を担う主体として、日本版DMO¹⁾ 組織化の動きが各地に広がっている。
- 現状、北陸3県に特化した広域連携DMOは見当たらないが、当地でも、既存組織をベースにした2法人の他に、今年5月、新たに西部6市を対象とする地域連携DMO（候補法人）が立ち上がった。これは、民間主導による県外客・インバウンド誘客強化に向けた連携の動きとして注目される（図表2-18）。

図表2-18 富山のDMO一覧及び観光地SWOT分析

名称	(公社)とやま観光推進機構	(一社)富山県西部観光社「水と匠」	(一社)黒部・宇奈月温泉観光局
設立	1947年	2019年	1950年(旧宇奈月) 1984年(旧黒部)
対象区域	富山県全域	高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市	黒部市
ターゲット層	<ul style="list-style-type: none"> ・50～60歳代(関東在住) ・20～30歳代(独身・カップル層) ・30～40歳代(近隣県、中部のファミリー層・ドライブ客) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大都市圏30代以上の「クリエイティブクラスター」 ・首都圏40代以上 ・欧米、東アジア等の中間層・富裕層個人客 	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏、近畿、東海地域に住む、40～60代ミドル、熟年層 ・台湾、香港の団体客、家族旅行客 ・都市部に住む子育て世代の家族客
コンセプト	選ばれ続ける観光地富山「海のあるスイス」を目指して	<ul style="list-style-type: none"> ・「土徳」(豊かな自然風土とそこに暮らす人々がもたらすギフト) ・「産業観光」 	大自然とその四季の魅力を活かし、世界に誇れる観光交流のまち 黒部

(注) DMO候補法人を含む

(出所) 各組織公表資料等を参考に、当行作成

富山の観光地SWOT分析

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・世界水準の観光資源(世界遺産五箇山合掌造り集落、立山黒部) ・世界で最も美しい湾クラブへの加盟が承認された富山湾 ・富山湾の海の幸等、美味しく満足度の高い食 ・日本海側屈指のものづくり県 ・伝統産業、伝統文化、祭り等 ・陸海空の玄関口及び鉄軌道王国富山 ・映画・ドラマの撮影実績 	<ul style="list-style-type: none"> ・滞在時間が短く、消費金額が少ない ・旅行者への食事提供環境の不足 ・外国人旅行者にも対応したグレードの宿泊施設のひっ迫 ・冬の宿泊客が少ない ・観光を担う人材・観光サービス等の不足 ・地域全体のホスピタリティに課題 ・一部施設の老朽化 ・二次交通網が十分とは言えない ・高山～金沢間の通過型観光地になっている ・官民、自治体間事業者連携の不足
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・2015年3月:北陸新幹線開業 ・全国的にインバウンドが増加傾向 ・2020年:東京2020年大会 ・2023年:北陸新幹線敦賀延伸(富山～福井間44分) ・2024年:黒部ルート一般開放(年間最大1万人) ・2025年:大阪・関西万博 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体間での競争激化 ・人口減による国内旅行者数の縮小

1) Destination Management/Marketing Organization の略

3. 富山への経済波及効果

北陸新幹線開業5年目の交流人口変化がもたらす富山への経済波及効果

- これまでみてきた通り、新幹線開業効果は広範囲に及び、富山の交流人口に大きな変化を与えている。そこで以下では、一定の前提条件・プロセスにより、開業5年目（2019年）における県外からの入込客数を想定し、開業前（2014年）との比較において富山にもたらす経済波及効果の推計¹⁾を試みることにしたい。なお、使用している統計の都合により、暦年、実人数単位にて算出している。
 - ① 「入込客増減数」：入込客数につき、県外日本人（観光客）・同（ビジネス客）・インバウンド（観光・ビジネス客）と、宿泊・日帰りの2軸で、計6属性（3×2）に分類。属性毎に2019年の実人数を、官公庁統計²⁾に基づき、一定の想定を織り込み算出した。これと開業前の実績（一部補正あり）との差し引きから入込客増減数を求めた（図表3-1）。
 - ② 「消費単価」：属性毎の消費単価実績に目立つトレンドはなく、2019年想定として、官公庁統計³⁾から得られた開業1～3年目における旅行一回当たりの消費単価実績（加重平均値）を各々採用した。
 - ③ 上記①及び②を掛けあわせ、経済波及効果の基となる「直接効果」として「県内消費増加額」を算出した。

図表3-1 交流人口変化による県内消費増加の算出

類型	入込客増減数（万人回）			消費単価（万円/人回）		県内消費増加額（億円）			
	宿泊	日帰	全体	宿泊	日帰	宿泊	日帰	全体	
県外 日本人	観光客	16	102	118	2.69	0.92	43	94	137
	ビジネス客	6	▲ 1	5	2.61	0.87	16	▲ 1	15
インバウンド	観光客・ ビジネス客	13	6	19	3.16	0.95	42	6	47
全体		35	108	143	2.85	0.92	100	99	200

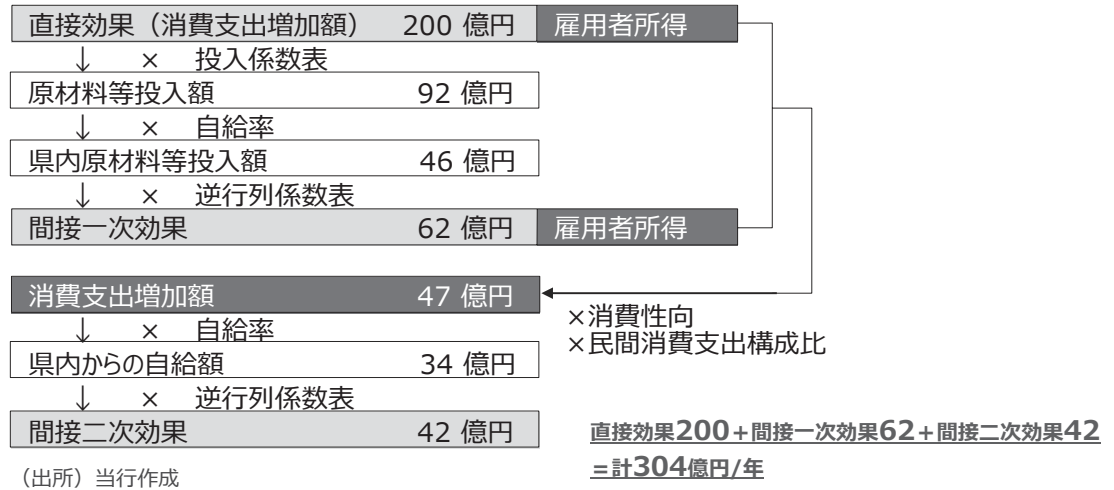
(注) 端数処理の関係で合計が一致しないことがある
(出所) 当行作成

1) 算出にあたっては(株)日本経済研究所の協力を得ている 2) 観光庁「共通基準による観光入込客統計」、富山県「富山県観光客入込数等」
3) 観光庁「共通基準による観光入込客統計」

北陸新幹線開業5年目の交流人口変化がもたらす富山への経済波及効果

- ④間接効果として、県の産業連関表を用いて、直接効果に伴う原材料等の購入によって誘発される財・サービスの生産額である「間接一次効果」と、直接効果や間接一次効果による雇用者所得増加に伴う消費支出の増加によって誘発される財・サービスの生産額である「間接二次効果」を各々算出した。
- 上述の前提条件・プロセスに基づき、経済波及効果を計算したところ、直接効果200億円/年、間接一次効果62億円/年、間接二次効果42億円/年、合計304億円/年の効果が見込まれる結果となった（図表3-2）。
 - ただし、2019年9月からの富山～ソウル便運休や、10月に発生した台風19号による北陸新幹線の浸水被害の影響については、政治的緊張や天災によるものであり、今回推計時点で影響が及ぶ期間や範囲が見通せず、反映していない。

図表3-2 富山への経済波及効果 内訳（今回ベースケース）



北陸新幹線開業5年目の交流人口変化がもたらす富山への経済波及効果

- また、今回の推計は、2013年に行った調査¹⁾ で発表した経済波及効果88億円/年に比べて3倍以上の開きがある。前回調査は、首都圏から富山県への入込客増加数にフォーカスして、新幹線開業による時間短縮効果に基づき首都圏からの入込客数を推計するモデルを用いたのに対し、今回は、新幹線開業効果が広範囲に及んでいる実態に鑑み、首都圏に限らず県外からの入込客数の変化そのものが富山にもたらす経済波及効果としており、前提が異なるため、両者の単純比較はできない点、留意が必要である（図表3-3）。
- 大切なのは、経済波及効果を持続可能にするための戦略策定である。国内の人口減少が進む中で伸びしろのあるのはインバウンドだが、試みに、インバウンド宿泊者数を県目標値（2019年延べ56万人泊²⁾）とした場合の経済波及効果は、合計409億円/年（うち直接効果267億円/年）と算出され、実に+105億円の上乗せが可能となる等、インパクトは極めて大きいことがわかる。
- しかし、この上乗せ分を「量」のみで早期実現しようとするれば、2018年実績31万人泊との対比で、新たに25万人泊ものインバウンド集客が必要となる。若い女性の社会減を始め人手不足が問題視される中、既存の観光地には受入能力に限りがある場合も多く、行き過ぎた集客はオーバーツーリズム³⁾ の問題を惹起しよう。

図表3-3 前回調査、今回アップサイドケースとの比較

公表時期	前提	入込客増減数 (万人回)	消費増加額 (億円)	経済波及効果 (億円/年)
前回 (開業前)	2013年 3月 新幹線開業による時間短縮効果に基づき 首都圏からの入込客数を推計	21	57	88
今回 (5年目)	2019年 11月 ベースケース：首都圏に限らず、 県外入込客数全体を対象	143	200	304
	アップサイドケース：インバウンド宿泊者数 につき、県目標値（56万人泊）を実人数 換算し、100%実現したと想定	164	267	409

(出所) 当行作成

1) 当行富山事務所・地域企画部「北陸新幹線開業による富山県内への経済波及効果」（2013年）

2) 富山県「新・富山県観光振興戦略プラン」（2016年3月）

3) オーバーツーリズム：観光地への過度な観光客の集中によって引き起こされる弊害

4. まとめ

富山がかがやき続けるために

- 前述の通り、北陸新幹線開業によって首都圏との結びつきが強まり、交流人口が増え、富山に大きな経済波及効果をもたらしたことが定量的にも確認できた。なかでも伸びしろのあるのはインバウンド宿泊客であった。
- ちなみに、2019年10月に当行と日本交通公社（JTBF）が発表したインバウンドの意向調査¹⁾によれば、「東京2020大会の訪日観戦意欲は、アジアで6割、欧米豪で5割と多い」、「東南アジアや欧米豪等、比較的訪日経験が少ない国・地域の関心がより高い」、「訪日観戦したい人の9割以上が、地方への訪問を同時に希望」、「行ってみたい地域は、開催地のみならず全国に及ぶ」との示唆を得ている。
- 東京2020大会は、当地にとってもインバウンド需要獲得の大きなチャンスであることから、遺漏なき対応が求められるところ。そのうえでここでは、更にその先を見据えた取り組みとして、当地で注目される先進的な観光ビジネス（計画中を含む）を取り上げたい。



（出所）能作：錫婚式

能作（高岡市）

- 鋳物メーカーの能作は、2017年に本社工場を高岡市オフィスパーク（新高岡駅より車で15分）に移転した。工場見学や鋳物製作体験等、ものづくりの魅力を存分に発信する産業観光拠点として年間12万人以上もの観光客を受け入れている。
- 顧客との直接のふれあいから着想を得て、2019年4月からは、同社が得意とする錫（スズ）製品に因み、**結婚10周年を祝う「錫婚式」のサービスを開始**した。本社工場での挙式やドレス・和装での写真撮影、錫器で味わう地元食材を使用した料理、記念品となる鋳物製作体験等の特別な体験を用意する。滑り出しは好調で、県外客からは家族旅行のメインイベントとして利用されている。コト消費を深掘りし、集客増や製品販売の拡大に繋げる優れた取り組みといえよう。

1) 当行・JTBF「アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（2019年度版）（2019年10月）」

富山がかがやき続けるために



(出所) 当行撮影：「沙石」外観



(出所) 白岩：建設予定地

岩瀬地区（富山市）

- 北前船交易による繁栄の歴史を持つ岩瀬地区では、地元造り酒屋・榊田酒造店の蔵元、榊田隆一郎氏が社長を務めるまちづくり会社が、**2004年から本物で上質なまち並みの整備**を進めている。再生された古民家には、全国からアーティストが移住し、ギャラリーや工房を構える。2019年8月には、築約150年の旧廻船問屋を生かした物販施設「沙石」がオープン。施設内には県内作家の手によるアート作品の販売コーナーや満寿泉の試飲スペースに加えて、地元食材にこだわる日本料理店が入る。
- 路面電車の南北接続が実現する2020年3月には、リノベした築100年以上の旧米蔵にて、チェコ出身のビール職人が取り仕切る地ビール醸造所がオープンする予定。

白岩（立山町）

- Dom Perignonの醸造最高責任者を28年間務め、強力な海外ネットワークを持つ仏出身の醸造家Richard Geoffroy（リシャール・ジェフロワ）氏らが、棚田が広がる立山町の中山間地域で新酒蔵を立ち上げる。日本酒醸造所と酒米用の水田を整備、県内で休業中の蔵元から酒造免許を引継ぎ、**日本酒の新ブランド（IWA）の世界展開**に乗り出す。
- 醸造所の隣接地では、立山町が「立山ブランド海外展開戦略施設」を建設、新会社に貸し付け、海外バイヤーや見学者の受け入れ体制を整える。日本酒貯蔵庫や展示コーナー、商談室、酒造ツーリズム用の研修施設等が設けられる。醸造所や施設の設計は、隈研吾建築都市設計事務所が担当。

富山がかがやき続けるために



(出所) 前田薬品工業：完成予想図

Healthian-wood（ヘルジアン・ウッド）（立山町）

- 県内の医薬品メーカー・前田薬品工業が、立山町にある約4万平米の敷地内に**美容と健康のビレッジを展開**する。Healthianとは、「未病でありながら健康に近い人」を意味する造語であり、ハーブ等天然・自然素材にこだわったモノ、コトを提供する。
- 当初は、アロマオイル体験工房やショップ、地元食材を生かした料理が楽しめるレストラン、多目的イベントスペース、ハーブガーデンを整備。2019年12月にレストランから順次オープンする予定。2021年秋には、宿泊施設（ヴィラ）とスパ&リラクゼーション施設を加える。設計はこちらも隈研吾建築都市設計事務所、水田と立山連峰に溶け込む美しい村（建築群）として世界に発信していく。

富山城パークマネジメント事業（富山市）

- 富山城址公園は、戦後復興の象徴たる富山城（登録有形文化財）をシンボルとし、富山駅から徒歩約15分の中心市街地に位置する面積7万平米の総合公園である。園内の各施設運営に一体感が乏しく、利用低迷、高額な維持管理費が課題となっていたが、現下、富山市が主導して**官民連携によるパークマネジメント（PM）事業の検討**を進めている。
- 例えば、長崎県・平戸城や愛媛県・大洲城では、東京2020大会を意識して、欧米豪ハイクラス等向け「城泊」事業が計画されている。富山城PMでも、インバウンドを意識した前例にとらわれない取り組みは可能であり、仮に実現すれば、富山城PMをフックに宿泊需要を喚起し、消費支出の増加が期待できよう。



(出所) 当行撮影：富山城PM・熱気球係留フライト体験

富山がかがやき続けるために

- 前頁の先進事例からの示唆も踏まえ、最後に、交流人口増加による富山への経済波及効果を持続可能とするための方策について考察したい。

(1) 体験型観光で稼ぐ力の強化

- 観光は本来、観光客を惹きつけ揺さぶるような「希少性」を武器に戦うビジネスである。自然、歴史、文化といった地域の観光資源は有限であり、これを保全管理しつつも、遊休資源や新しい価値の存在に気づき、滞在し・リピートしたくなる“体験”価値の提供を意識して、新たなコンテンツとして磨き上げ、消費単価向上と顧客満足との両立を目指す、稼ぐ力が求められる。当地では「産業観光（コト×モノ）」「アート」「コンベンション/MICE」等の深掘りが有望であろう。
- 新幹線開業による“スケールメリット”を享受しつつも、「量」だけを追求するのはリスクを孕むことから、一定の入込客数で効率良く消費額の底上げを図るべく、住民と官民が一層連携して、地域一丸となって稼ぐ力をしたたかに高めることが肝要である。

(2) 文化財等での新たな官民連携

- 地方財政が厳しさを増し公務員数も減少するなか、自治体で管理する文化財や歴史的建造物、博物館・美術館等についても、可能なものから、マーケットインの視点で積極活用しながら保全管理も行うという考え方を取り入れていく必要がある。
- その際、ユニークベニューや宿泊等、前例にとらわれない新たな使い方の可能性を追求し、PPP/PFIによる官民連携（民間活用）を一段と進めるべきである。

(以下、次葉)

(3) 地消地産戦略・食との連携

- 経済波及効果の視点からは、入込客数や消費単価の要素に加えて、域内調達率（自給率）を引き上げることが重要である。すなわち、地域で消費するものは極力地域産品/サービスを使うという「地消地産」¹⁾によって、域内の経済循環を拡大することが、地域の経済的な自立に繋がるという考え方である。
- 幸いにして、富山は立山連峰から富山湾まで高低差4,000mに及ぶ希少な地形が生み出す豊かな食材群があり、戦略的に地消地産を展開し易い。地元食材を生かした食文化を育み、観光と食との連携を一層密にすることで、域内調達率の上昇と顧客満足との両立が得られよう。

(4) 敦賀開業に向けた広域連携

- それぞれの地域がきちんと“稼ぐ”領域と“協調する”領域とをよく見極め、地域全体の価値を高めるべく市境・県境を越えた有機的な連携に取り組むことで、新幹線停車駅をハブとした“シナジー効果”が発揮され、周遊による観光客の滞在日数長期化（消費単価向上）と顧客満足との両立が期待しうる。
- 2023年春開業予定の新幹線敦賀延伸によって、富山～福井間が44分（約25分短縮）で結ばれ、北陸は確実に小さくなる。（1）～（3）の取り組みに加えて、大都市圏・インバウンドを対象に、例えば「産業観光」や「アート」「北前船」「食（・日本酒）」といった北陸レベルの連携・共通テーマを扱う広域連携DMOの組織化や、二次交通に加えて新たなテクノロジーを活用した「観光MaaS」²⁾等のインフラ整備を着実に進めることで、富山を含む北陸地域が、大都市圏から近く、住んでよし、訪れてよしの長期滞在に適した魅力ある観光地（クラスター）へと飛躍できる可能性がある。

1) 地域で産した物を地域で消費する「地産地消」とは視点が異なる。「地消地産」は、地域外から購入していたものを地域産品/サービスに置き換えることで、域内調達率を高め、地域外に流出していたカネを取り戻すことに重きを置いている。

2) Mobility as a Serviceの略。なお、富山県ではバスの利便性向上と利用促進の観点から、2019年11月より、標準的なバス情報フォーマット（JTFS-JP）に準拠して、県内路線バスの位置情報をリアルタイムで提供する「バスロケーションシステム」を新たに立ち上げる。県内全域の民営・公営バスを網羅するシステムは全国初。

(参考) SWOT分析による方策の整理

		強み		弱み	
		<ul style="list-style-type: none"> 世界水準の観光資源（世界遺産五箇山合掌造り集落、立山黒部） 世界で最も美しい湾クラブへの加盟が承認された富山湾 富山湾の海の幸等、美味しく満足度の高い食 日本海側屈指のものづくり県 伝統産業、伝統文化、祭り等 陸海空の玄関口及び鉄軌道王国富山 映画・ドラマの撮影実績 		<ul style="list-style-type: none"> 滞在時間が短く、消費金額が少ない 旅行者への食事提供環境の不足 外国人旅行者にも対応したグレードの宿泊施設のひっ迫 冬の宿泊客が少ない 観光を担う人材・観光サービス等の不足 地域全体のホスピタリティに課題 一部施設の老朽化 二次交通網が十分とは言えない 高山～金沢間の通過型観光地になっている 官民、自治体間事業者連携の不足 	
機会	<ul style="list-style-type: none"> 2015年3月：北陸新幹線開業 全国的にインバウンドが増加傾向 2020年：東京2020年大会 2023年：北陸新幹線敦賀延伸（富山～福井間44分） 2024年：黒部ルート一般開放（年間最大1万人） 2025年：大阪・関西万博 	体験型観光で稼ぐ力の強化 <ul style="list-style-type: none"> 遊休資源や新しい価値の存在に気づき、体験価値の提供を意識して、新たなコンテンツとして磨き上げ、消費単価向上と顧客満足度の両立を目指す 「産業観光（コト×モノ）」「アート」「コンベンション/MICE」等の深掘りが有望 	文化財等での新たな官民連携 <ul style="list-style-type: none"> ユニークベニューや宿泊等、前例にとらわれない新たな使い方の可能性を追求し、PPP/PFIによる官民連携（民間活用）を一段と進める 	食との連携 <ul style="list-style-type: none"> 富山の豊かな食材群を生かした食文化を育み、観光と食との連携を一層密にする 	敦賀延伸に向けた広域連携 <ul style="list-style-type: none"> 大都市圏・インバウンドを対象に、「産業観光」「アート」「北前船」「食（・日本酒）」といった北陸レベルの連携・共通テーマを扱う広域連携DMOの組織化 二次交通や「観光MaaS」等、着実なインフラ整備
	脅威	<ul style="list-style-type: none"> 各自治体間での競争激化 人口減による国内旅行者数の縮小 	<ul style="list-style-type: none"> 新幹線開業によるスケールメリットを享受しつつも、一定の入込客数で効率良く消費額の底上げを図るべく、住民と官民が一層連携する 	<ul style="list-style-type: none"> 地方財政が厳しさを増すなか、自治体で管理する文化財や歴史的建造物、博物館・美術館等についても、可能なものから、マーケットインの視点で積極活用しながら保全管理も行う 	地消地産戦略 <ul style="list-style-type: none"> 地域で消費するものは極力地域産品/サービスを使うという「地消地産」によって、域内調達率を引き上げ、域内の経済循環を拡大する

▶ 大都市圏から近く、住んでよし、訪れてよしの長期滞在に適した魅力ある観光地（クラスター）へ

（出所）図表2-18より当行作成

©Development Bank of Japan Inc.2019

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

（お問合せ先）

株式会社日本政策投資銀行 富山事務所
〒930-0005 富山県富山市新桜町6-24
電話：076-442-4711